

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502769		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 清田館		
所在地	札幌市清田区清田6条1丁目11番15号 (電話) 011-884-1373		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 1人, 非常勤 16人, 常勤換算13.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	54,080 円
敷金	○有(116,000 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円 ○無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	7	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均83.8歳	最低	73歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌医療生活協同組合、札幌緑愛病院、こじま歯科クリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな特徴として、住宅街の中に土地を借り受けて野菜の菜園作りをしている点です。これは利用者の外での作業を通して気分転換に大いに役立つほか、収穫の喜びをスタッフと共に分かち合うことができる大切な要素が含まれています。また、この菜園での実りの経過は、周りの住民の皆さんにとっても大きな関心事であろうと考えます。地域に密着した利用者の暮らしが、ホームのふれあいが大きく育つトウモロコシであり、真っ赤に色づくトマトに象徴されていると思われます。また、ホーム内では、スタッフのゆとりある動作、言葉掛けなど、利用者に限らず家族、我々調査員をして安心感に浸れる独特の空間を与えてくれます。この空間は、ホーム長を軸としたユニット長、スタッフ全てが切磋琢磨して作り上げたものと考えますし、自己評価でも見ることができる常にハードルを高くしての前向きな姿勢が高く評価できます。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での課題①ホームとしての看板がない。②緊急時のマニュアル整備と継続した教育訓練。③スタッフのストレス解消策の検討。④行政との積極的な関わり。の各項目については、何れも前向きな取り組みが行なわれて改善、もしくは改善されつつあります。ホーム前の新設された可愛い看板はとても印象的に見ることができました。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の各項目について、スタッフの全てが関与し、気づきや取り組みがホーム長のもとに寄せられるなど、関心の高さが認められます。家族及び運営推進会議などにも自己評価と外部評価を報告して、今後の取り組みのモニター役となってもらうなどしています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの現況報告に留まらず、ホーム内に抱えている諸問題、課題をも会議の議題に供するなど、開かれたホーム運営を目指す前向きな姿勢が評価されます。また、地域の中での利用者の暮らしと交流に関して、更には災害時の緊急避難場所の確保に至るきめ細やかな対応が討議されております。会議には町内会の方々に加え、家族及び利用者の出席も多く見られるほか、法人からは専務、介護事業部長も出席するなど、より良いホーム運営への前向きな姿勢をうかがい知ることができます。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>市内の中でも、ホームに近く住まわれている家族が多いため、ホームへの訪問頻度が高く、スタッフとのふれあいの機会もまた多くあります。また、家族会では意見、要望もスムーズにできるなどホームの運営改善に役立つ内容となっています。スタッフが手書きで利用者の様子を知らせていますが、家族にとっては一番知りたい内容となっており、家族の抱く不安の解消に役立っております。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区内での行事には、常に案内をいただくなど住民のご理解は日々深まっております。ホームとしても、積極的に参加しながら地域に根ざした利用者の暮らしを支援しております。町内のゴミ拾い、春の一齐清掃への参加、植樹マスの花植え、リサイクル活動への参加など連携の広がりが増えており、これからもより交流が増すよう期待したいと思っております。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでのホーム理念に加え、「地域とのふれあいを大切にした暮らし」「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるような支援」をしっかりと明示しながら、日々のケアが行なわれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各スタッフの名札裏には、運営理念が記載されています。また、毎朝、理念を唱和するなど理念の実践に向けて日々の取り組みがされています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内行事（夏祭り、春の一斉清掃、植樹マスの花植え、ジンギスカンパーティなど）には積極的に参加しています。区長を囲む懇談会にも出席して、意見交換を行なっています。また、当ホーム主催の夏祭りには、近くの住民が参加され楽しいひと時を過ごされています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価を作り上げたことにより、日々のホーム運営をスタッフ自ら省みる大きな機会となったことに注目したいと思います。ボトムアップとしての自己評価は、外部評価への関心事になり、今後の取り組みのエネルギーとなると思慮いたします。		

札幌市 グループホーム菜の花清田館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催される会議では、細部にわたるケアサービスの説明、普段はあまり公表されないインシデント内容、また、スタッフへ向けて実施した社内アンケート調査の結果をも議題に供するなど、情報の公開と会議での提言を大切にしながらホーム運営の向上に役立てています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険窓口には、介護に関わる疑問の解消やホームとしての提言を聞いてもらうなど連携を深めています。また、市が主催する管理者会議や区のグループホーム協議会を利用して担当者との会話の機会を作りながら、ケアサービスの質の向上に役立てています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事の様子や写真などが満載されている「菜の花たより」が毎月、家族のもとに送付されています。また、ユニットごとで利用者の様子を知らせる手書きの「お便り」が郵送され、家族の安心感とスタッフとの絆をより強固なものにしています。	○	「ホーム便り」及び手書きの「お便り」は、家族が一番知りたい利用者の様子が判り、これからも内容豊富な情報の提供を期待します。また、手書きの「お便り」では、ユニットによって隔月の作成となっており、家族の安心と期待に添うよう毎月、作成して発送されるよう期待いたします。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通して、また、家族が訪問の際などを利用して出される意見や要望、苦情などは、ホーム内は勿論、会社のトップまで伝えられるシステムができており、家族への迅速かつ直接対応を行ないつつホームの運営に反映させております。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規の職員に対しては、早く利用者と馴染めるよう、先輩のスタッフが気配りして対応しています。また、異動や退職があった場合には、馴染み深い利用者のダメージをできるだけ緩和するよう配慮するほか、家族にも報告して理解と協力を求めるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育課が設置されており、スタッフのレベルアップに向けた社内研修が盛んに行なわれています。また、スタッフのレベルに応じた部門毎の外部研修へも参加ができるように年間計画書を作成して推進を図っています。スタッフの自主研修に対しても勤務体制を変えるなど配慮がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の地区連絡会議が定期的開催されて、交流、研修、親睦など広範囲にわたり取り組みがされています。管理者以外のスタッフに対する研修も年2回程度の開催がありますが、ほかのグループホームへの見学などはこれからのようです。	○	ほかのグループホームへの見学は、普段のホーム運営やケアサービスを進めるなかで気づかないことへの発見が多く、スタッフのスキルアップに貢献するところが大きいとされておりま。また、スタッフ間の交流を通して仲間作りができることにも役立ちますので、ほかのグループホームに出向いての研修や交流の機会創出を期待いたします。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して暮らしができるように、入居の申し込みがあった際には、スタッフが利用者が住まわれていた自宅を訪問し、お部屋を見せていただくなど、住まわれていた環境を知ることが大切にながら、馴染み深くサービスを提供できるよう努めています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、利用者と同じ目線で、本人の悩みや昔話を聞くなど利用者の気持ちを大切にされた関係作りに努力しています。事故がないよう心配りをしながら、ともに生活しているという関係作りが日々行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、利用者の思いや暮らし方の希望を知るため、日々の行動、何気ない表情などから把握するよう努めています。また、家族の協力を得ながら意向の把握して、本人本位のケアサービスの実現を目指しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	知り得た利用者及び家族の情報や意向をもとに、月1回の定例会議では担当スタッフ自ら書き上げたモニタリングやアセスメントを中心に、全員によるカンファレンスが行なわれ、利用者本位のケアプランが作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスでケアプランの見直しが検討されていますが、定期的には3ヶ月をひとつのスパーンとして見直し作業が行なわれています。また、入院や体調の変化などの際には随時見直しが行なわれ、利用者にとって一番適切なケアサービスが受けられるよう配慮がされています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や馴染みの美理容院への送迎、併設しているデイサービスでの共同の活動、また、家族を含めた外出機会を作るなど利用者や家族の状況により多岐にわたる支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、提携する医師による訪問診療が実施されており、加えて看護師が常勤しているため、医師との綿密な連携のもと受診支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、重度化した場合に備え、家族から対応の指針の同意書を頂いております。病状の悪化などの際には、掛り付け医及び家族、看護師が十分話し合いできる体制ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族が楽しみにしている「菜の花たより」に掲載している写真は、家族からの了解を事前にいただくなどの配慮がされています。また、個人情報の書類などは人目に触れないよう管理されているほか、社内での研修会では度々、プライバシーを損ねない意識の向上について学んでおります。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊、夜遅くまでテレビ観戦をする、外出や散歩、食事をゆっくりと取るなど、利用者の生活のペースを乱さないよう心掛けをして支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大まかな献立は、併設のデイサービスの栄養士が作り、栄養の偏りが無いよう管理されています。食事前には恒例の嚥下体操を行ない、利用者もできることへの参加をしていただいて、スタッフと一緒に調理や配膳、ひざを交えての食事、下膳、食器洗い・拭き、など楽しく行なわれております。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴を目標にした支援が行なわれています。本人のペースでゆっくりと入浴されるなど意向に沿った入浴がされています。夜間入浴は、実施されておりません。	○	現在、入浴を午後の時間帯にセットして利用されていますが、夜間入浴に関しては利用の希望がないとのことで実施されておりません。夜間入浴には入浴介助のスタッフ増員など様々な条件が必要ですが、利用者の今後の意向を考慮されて実現の方向で検討を期待します。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立の可能性を追求しながら、生活をエンジョイできるよう支援が行なわれています。本人の特技、趣味を活かしたホーム内の役割、諸作業、また、ホーム外では散歩、菜園の作業、地域の行事参加など笑顔で生活できる毎日を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺の花壇や菜園のほか、80坪ほどの土地を借りた畑での作業が盛んに行なわれて、収穫の野菜をご近所に配るなどしています。個別の買物、近くの喫茶店へ出向く利用者、また、ホームの行事の一環として町内行事への参加など外での気分転換が配慮されています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の8時から朝の6時までは防犯上施錠をしていますが、昼間は施錠せず開放されています。スタッフは玄関センサーで様子を察知できますが、見守りを第一としており鍵を掛けないケアの取り組みが実施されています。		

札幌市 グループホーム菜の花清田館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て防災避難訓練を実施しているほか、AEDを含む救急救命法の技術取得などを実施して不測の事態に備えています。また、町内会へも災害発生の際の協力依頼もされています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作り、カロリーや栄養バランスに配慮しています。水分や食事の摂取量は細やかにチェックされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはユニット毎に3箇所があり、内1箇所は車椅子対応となっています。、玄関、廊下並びにリビングは自然採光が柔らかく取り入れられています。リビングには、畳の小上がりがあり和風の雰囲気を醸し出しています。全体的に家庭的でゆったり感のする空間の中で、利用者は思い思いの生活をされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居室には、利用者が馴染みの家具、調度品が持ち込まれ家庭的な雰囲気の中なかで、安心した暮らしが営まれています。窓は隣接の建物から離れており、窓下に花壇などが見える圧迫感のない空間となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。